

9. 令和5年 日曜 24

10:00~12:00 (終了予定)

中世の佐那河内村

地域史 大般若経が語る 勸善寺

参加
無料

佐那河内村役場
(村民ホール)



勸善寺(神山町)

大般若経は全六〇〇巻から成り、奈良時代から鎮護国家や招福除災などのため読誦が盛んに行われました。また、各地の寺社で書写や奉納がなされており、日本の歴史上、最も広く浸透した経典といえるほどでした。神山町阿野の勸善寺に伝来する大般若経(徳島県指定文化財)は、南北朝時代末期に書写されたものです。現在の神山町域はもちろん、佐那河内村を含む広い範囲の寺社や僧の相互協力によってできあがっていることから、当時の往来や交流の記録としても注目されます。勸善寺大般若経が伝える情報をもとに、14世紀の佐那河内村の様子を探ってみたいと思います。

さち香る 風の谷



SANAGOCHISON



講師 **長谷川 賢二** 徳島県立博物館長・鳥居龍蔵記念博物館長
はせがわ けんじ

1963年、広島県福山市生まれ。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程中退。1989年徳島県職員(学芸員)となり、90年から徳島県立博物館に勤務。2010年からは徳島県立鳥居龍蔵記念博物館も兼務。現在、県立博物館長・鳥居龍蔵記念博物館長。研究分野は、日本中世宗教史、阿波地域史。鳥居龍蔵の事績を中心とする日本人類学史にも取り組む。著書に「修験道組織の形成と地域社会」(岩田書院、2016年、第25回日本山岳修験学会賞受賞)などがある。

- 主催：佐那河内村
- 後援：阿波学会

お問い合わせ 企画政策課 TEL.088-679-2973

